

第1回^{えんちゃ}淹茶選手権 九州大会要項

大会は課題茶部門とフリースタイル茶部門の2部門で開催する

- | | |
|-------------|--|
| ・課題茶部門 | ：運営が用意した茶葉・茶器を使ってお茶を淹れる |
| ・フリースタイル茶部門 | ：出場者が選んだ茶葉と茶器を使ってお茶を淹れる
(ただし、お湯・スケールは運営が用意する) |

<はじめに>

本大会は『あなたのお茶が飲みたい/飲んでみたい』と相手に思わせることを競う大会である。茶品評会のように茶葉に着目するのではなく、世の中に“お茶を淹れる人”に着目してもらうことを目的とする。彼らが目の前のお茶を淹れるために何を考え、何に悩み、どのような技術を磨き、そこから何を伝えようとしているのか。お茶と向き合う日々を積み重ねてきた者だけが淹れられる一杯を通じて、淹茶(=お茶を淹れる行為)の魅力は今こそ世界に発信していく。

<大会要項>

- ・大会出場者は2部門への出場を必須とする
- ・両部門とも制限時間は1人10分間(残り1分でベルが鳴る)、その後審査員との質疑応答5分間とする(10分間にお茶の説明および審査員へお茶を淹れる時間が含まれます)
- ・競技は出場者の「はじめます」という言葉からスタートする
- ・出場者は以下の内容を必ず盛り込むこと
 - 課題茶 : 飲んだ印象からどのように淹れ方を決めたかの説明
 - フリー茶 : そのお茶を選んだ理由およびどのように淹れ方を決めたかの説明
- ・審査の配点は以下の通りとする(加点方式) ※詳細は審査シート参照
 - 1.技術+2.プレゼンテーション : 33点
 - 3.味 : 27点
 - 4.芸術 : 40点合計 100点
- ・九州大会の審査員は以下3名とする
 - 審査委員長 : 奥富雅浩(from 奥富園、日本茶インストラクター協会 東日本ブロック長)
 - 審査員 : 正垣克也(from お茶と食事 余珀 店主、日本茶インストラクター)
 - 審査員 : 小幡一樹(日本茶インストラクター)
- ・この大会では見ている側もやってみたいと思える内容にするため、出場者がイメージする茶葉の量・浸出時間・お湯の温度・お湯の量は公開する(競技内の説明に盛り込む形でも別途大会HPに掲載する形でも結構です)

- ・九州大会優勝者には東京本選(2022/2/20)への出場権が与えられる
(交通費は事務局より支給します)
- ・審査員、会場オーディエンス含め出場者のパフォーマンスに対する歓声は歓迎する
(ただし COVID-19 状況次第で変更有り。なお掛け声などの応援は不可とします)
- ・九州大会(2021/12/10)のスケジュールは以下の通りとする

9:00	会場設営
10:00	出場者集合 ルール説明+課題茶配布 各自リハ+課題茶試飲
12:00	各々昼休憩
13:00-14:30	課題茶部門
14:30-15:00	転換
15:00-16:30	フリースタイル茶部門
16:30-17:00	審査
17:00-17:30	結果発表
17:30-18:30	片づけ
19:00	懇親会

◎課題茶部門について

- ・九州大会の課題茶は“奥富園（埼玉県狭山市） 萎凋煎茶 ほくめい”とする
- ・課題茶は大会当日会場で競技開始 180 分前に配布する（配布量 50g：試飲ならびに本番用になります）。出場者は開始前に配布された分量の中で複数回試飲することが可能。

◎フリースタイル茶部門について

- ・使用する茶はカメラリア・シネンシスかつ日本で栽培、製造したものに限り
- ・フリースタイル茶部門においては事前に事務局からテーマが伝えられる
★九州大会のテーマは「冬」
- ・九州大会 3 日前までに運営へ当日の内容をメールにて提出すること（使用する茶葉、茶器、その他道具、パフォーマンス内容）宛先：encha.project@gmail.com
※パフォーマンス内容について運営が危険または過激と判断した場合、運営側は出場者と事前調整を行う

以上